資料　1

教育大綱の改定に向けて

【改定作業の流れ】

	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
日程	第２回総合教育会議 (8/27 PM)			第３回総合教育会議				第４回総合教育会議
内容	・教育大綱の改定に向けた方向性の確認	庁内検討作業		・改定教育大綱 素案の検討 素案	庁内検討作業			・改定教育大綱 最終案の確認 完成

【教育大綱改定の方向性（案）】

現・教育大綱

対象期間：平成２７～令和元年度

○基本理念

～「健康都市　やまと」の実現を目指して～
自ら成長する力と豊かな心を育むまち　やまと

○方　針

- 子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します
- 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます
- 創意に満ちた活力ある教育環境を整えます
- いじめ・不登校問題の解消に真摯に取り組みます
- 国際社会での活躍の礎となる英語力や国際感覚を育みます
- 時代に即した先進的な情報教育を実施します
- 健康に関する教育を推進します
- あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します
- 市民の豊かな心を育む生涯学習を推進します

見直しにあたり留意する要素・視点

●現・教育大綱に関わる主な取組・実績・成果（H27 → H30 末）

- 保育所等の環境整備　等
  （待機児童:H28 から 4 年連続 0、入所定員:2,722 人 → 4,283 人）
- 放課後寺子屋やまとの実施、特別支援教育センターの設置、学校図書館教育の推進　等
  （寺子屋やまと参加児童数:16 人 → 43 人/日）
  （読書活動優秀実践校・文部科学大臣表彰：文ヶ岡小）
- 小中学校普通教室の改善　等
  （防音工事・大規模改修実施校:4 校）
- 不登校・いじめ対策推進の体制整備　等
  （集団アセスメントテストの実施:10 校 → 28 校）
- イングリッシュデイの実施、英語学習の拡大　等
  （小 5・6 年生英語学習時間数:35 時間 → 50 時間）
- タブレット端末の整備、プログラミング教育への対応　等
  （タブレット端末の導入済校:28 校）
- 子育て何でも相談・応援センターの設置、各種教室の開催　等
  （プレパパ・ママ教室参加者:1,111 人 → 1,447 人）
- 文化創造拠点シリウス図書館、中央林間図書館の整備　等
  （市民１人あたり年間図書貸出冊数:4.68 冊 → 5.39 冊）
- 健康都市大学の開設　等
  （平均受講者数:28.6 人／日【直近の状況・R 元 7 月 4 日現在】）

●考慮が必要と考えられる社会課題等

加速する少子化、共働き世帯の増加、子どもを取り巻く環境の複雑化
➡子どもを産み育てやすい環境の整備、親育ち、家庭状況等に左右されず全ての子どもが健やかに育つための環境整備、放課後などにおける子どもの居場所づくり

ＡＩをはじめとする科学技術の急速な発達等
➡未来を切り拓いて生きていく力(確かな学力等)の獲得、図書館教育、ＩＣＴ・デジタル・プログラミング教育の推進

グローバリゼーション、多様な価値観
➡英語教育、特別支援教育の推進

自然災害、交通事故等の脅威
➡命を守る教育の推進、子どもの安全を守る環境整備

高齢化の進展、人生 100 年時代の到来、おひとり様の増加
➡気軽に学べる環境、居場所としての学びの場の確保

改定・教育大綱

対象期間：令和２～６年度

見直しの基本的な考え方（案）

現行の教育大綱をベースとしたうえで、これまでの本市の取組や、新たに策定した「健康都市やまと総合計画」、国の「第３期教育振興基本計画」の内容等を踏まえながら、新しい時代に対応していくための教育大綱へ見直すことを基本に検討を行う。

＜現・大綱策定時(H27)＞

第８次大和市総合計画

○将来都市像「健康創造都市　やまと」

- 基本目標２　子どもが生き生きと育つまち
- 基本目標６　豊かな心を育むまち

＜大綱改定時(R1)＞

健康都市やまと総合計画

○将来都市像「健康都市　やまと」

- 基本目標３　こどもがすくすく成長する産み育てやすいまち
- 基本目標４　未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
- 基本目標７　豊かな心と感動が広がるまち

（国）第２期　教育振興基本計画

【４つの基本的方向性】
▸社会を生き抜く力の養成　▸未来への飛躍を実現する人材の養成
▸学びのセーフティネットの構築
▸絆づくりと活力あるコミュニティの形成

（国）第３期　教育振興基本計画

【今後の教育行政に関する基本的な方針】
▸夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する
▸社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する
▸生涯学び、活躍できる環境を整える　▸教育政策推進のための基盤を整備する
▸誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する